

連携・協働の力・タ・チ

令和3年12月8日発行 福島県教育庁会津教育事務所



これからの社会を生き抜く力を育む 地域と連携した防災教育

＝ 喜多方市立第一中学校の取組 〈その2〉 ＝

前号に続き、喜多方市立第一中学校（以下、喜多方一中）の防災教育の取組について紹介します。喜多方一中では、地域と学校の課題やニーズを関連させ、地域の関係機関と連携・協働しながら次のように防災教育を進めています。

生徒の学びを主体的にする取組として

令和2年度に東日本大震災の被災地を訪問し、津波被害や原発事故の避難から得た教訓を学ぶ機会を設けることで、防災学習の重要性を生徒自身に実感させました。

防災教育の重要性を実感した生徒は、地域の豪雨災害に備えたハザードマップ作りに意欲的に取り組んでいます。

地域ハザードマップの作成に取り組む生徒→



地域の防災訓練の推進役となり、地域の防災意識の高揚につなげる取組として



地域の関係機関と連携して地域住民との地域合同避難訓練を実施し、避難所設営の訓練を行い、地域の防災訓練の推進役となって地域の防災意識の高揚につなげる取組を行っています。

避難所での中学生の役割体験を行うに当たっては、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）や消防署、地域の自主防災組織や赤十字奉仕団などと連携して指導体制を構築しています。

← 地域合同避難訓練における避難所設営で簡易ベッド作りをする生徒

専門的な防災知識と地域の状況をよく知るために

防災に関する専門的な知識と地域の状況をよく知るために、市の危機管理課や建設事務所の職員、県立博物館の学芸員を講師に招き、各種自然災害への対応を学ぶ学習会を3年間で完結するようにしています。

喜多方建設事務所職員による河川実地調査 →



